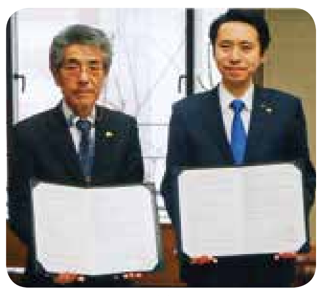
防災協定の締結、防災訓練に参加

山形県山形支部（支部長・石澤政光）は3月15日、山形市と「災害発生時における災害応急対策に関する協定」を締結した。平成25年の県隊友会と県との災害協定の締結に続くもので、市区域で自然災害及び緊急対処事態の災害が発生し甚大な被害が発生した場合、市民の生命・身体及び財産を守るため、市の協力要請に基づき災害応急対策業務の補助的役割を担うもの。支部は自衛隊で培ったエキスを協力活動の処々に発揮し、一丸となって取り組む所存である。（事務局長・岡崎誠）


石澤支部長（左）と佐藤山形市長

鹿児島県知名支部（支部長・吉田末次）は3月12日、知名町長室において、知名町と「大規模災害時における隊友会の協力に関する協定」を締結した。今井町長は、「昨今、想定外の災害が多々発生している。協定は町民にとって非常に心強く安心につながる」と感謝の言葉を述べられた。支部発足以来6年間、知名町が行う防災訓練には毎年参加しているが、今後は実のある協定とするべく連携を更に深め、訓練に取り組む決意を新たにした。（支部長）

握手する今井町長（左）と吉田支部長

帯広地方帯広連合支部（支部長代行・松原高廣）は1月27日、帯広小学校で実施された「帯広市冬季防災訓練」に参加した。帯広連合支部は、帯広西支部と同東支部で構成され20名（内女性部4名）が訓練に参加。塚野帯広地方隊友会長、寺崎事務局長も応援に駆け付けた。会員は、住民の掌握、誘導、炊き出しの任務を完遂。久我女性部長（元帯広駐屯地管理栄養士）は、防災時における栄養学の講話を担当、「食事はとれているか。水分をとる。衛生に注意。運動が大事」と話した。（帯広地方広報・佐藤敏教）

という災害時に備える
栄養と食事
栄養学の講話を行う久我女性部長

栃木県雀宮支部（支部長・岡村幸夫）は3月11日、宇都宮市雀宮地区防災会主催の防災訓練に会員21名が参加した。消防署、住民等約380名の参加者を前に、救出・救護の訓練展示と給食・給水業務を担当した。救出・救護班は事前の予行訓練により、瓦礫の除去・負傷者の捜索・救出・応急処置を迅速に行い、仮設救護所へ担架搬送し、参加者から盛大な拍手を受けた。また、給食・給水班は天幕設営、炊飯を行い、婦人会の支援を得ておにぎり約800個、豚汁400食を提供した。（監事・豊田幸光）

応急処置後に担架搬送

愛知県豊川支部（支部長・山田完治）は3月7日、12名で支部会としては初めてのイメージTEN（災害時に自主防災組織の対応を考える図上訓練）の勉強会を実施した。蒲郡市防災担当官の鈴木会員の指導を受け、次々に示される災害状況に対し図上戦術さながら対応。参加者が元自衛官であることで勉強会は順調に進んだが、自主防災会は一般市民で編成されるという現状から、イメージTENの重要性を認識。問題点を浮き彫りにして初めての勉強会は成果をあげ終了した。（広報幹事・岸本隆志）

イメージTEN勉強会

漢検　日本漢字能力検定【検定問題】

準1級（大学・一般程度）

㈠次の傍線部分の読みをひらがなで記せ。1～2は音読み、3は訓読みである。
1　賢兄の劉覧に供する。
2　註疏の類を参看する。
3　防風の生け垣に黒橿を植える。

㈡次の傍線部分のカタカナを漢字で記せ。
1　コトナカれ主義の人が目に付いた。
2　ギキョウシンに駆られて助太刀する。

2級（高校卒業・大学・一般程度）

㈠次の—線の漢字の読みをひらがなで記せ。
1　特産の焼酎を心ゆくまで味わった。
2　X線検査で肺に空洞が見つかった。

㈡次の—線のカタカナを漢字に直せ。
1　車が雪道でジョコウする。
2　金額のタカを問わず寄付を募る。

（解答は、この面）

自衛隊諸業務への支援

長崎県佐世保支部（支部長・江見雅博）は3月25日、アデン湾へ海賊対処活動のため派遣される水上部隊第30次隊（指揮官：第5護衛隊司令・中村1佐）の護衛艦「あけぼの」（艦長・波江野2佐、乗員約190名）の出国行事に、多数の会員が参列した。行事には、佐世保地方総監等各級指揮官、市長等来賓、支援団体、家族等約600名が参加。自衛艦隊司令官からの訓示を伝達後、派遣部隊指揮官・中村1佐が出港報告を行い、「軍艦マーチ」の演奏の中関係者や涙する隊員家族に見送られ出港した。（事務局次長・早田徹也）

帯広地方足寄支部（支部長・佐野榮一）は3月4日、足寄町南コミュニティーセンターで開催された「自衛隊入隊者激励会」に参加した。航空自衛隊へ入隊予定の尾西将宏君（帯広南商業高校出身）は「社会人として自覚をもって、これからの厳しい訓練にも野球部で鍛えた体力気力で頑張りたい」と力強く抱負を語った。主催者の自衛隊家族会をはじめ、副町長、帯広地本・足寄弾薬支処等の代表者23名が参加し、尾西君の栄えある前途を祝した。（支部長）

入隊予定の尾西君（中央）

岩手県滝沢支部（支部長・南野勇）は3月4日、盛岡市のホテルメトロポリタンにおいて、「平成29年度自衛隊入隊・入校予定者激励会」を、自衛隊協力会及び自衛隊家族会と共催した。この激励会は、滝沢・盛岡・岩鷲支部の会員25名の協力のもと、入隊・入校予定者108名と来賓・家族約230名が参加し盛大に実施された。戸田実行委員長（盛岡支部長）の挨拶に始まり、祝辞、防衛大臣等ビデオメッセージの紹介等が厳粛に進められた。慣れない土地で違う環境の中一日も早く慣れ、自衛官としての自覚と誇りを身につけ健闘することを祈念した。（支部長）

祝 平成29年度 自衛隊入隊 入校予定者激励会

福島県いわき方部会（部会長・大竹峯二）は3月3日、「平成29年度いわき地区自衛隊入隊・入校予定者激励会」を開催した。激励会では、主催者を代表して大竹部会長が挨拶し激励の言葉を述べた。それは、自衛隊への入隊・入校に対するお祝いと空自パイロット出身で宇宙飛行士の油井元2佐、海自医官出身で宇宙飛行士の金井元2佐を例に、入隊・入校者もこれから大きな志をもって目標に邁進し、自信と誇りを胸に立派な自衛官として活躍されることを期待するというものであった。（部会長）

岩手県岩鷲支部八幡平分会（分会長・上林正）は3月11日、八幡平市役所において、入隊（校）予定6名の「自衛隊入隊（校）予定者激励会」を自衛隊八幡平市協力会（会長・田村市長）と共催した。来賓の市議会議長等の他、会員を含む約50名の出席を得て行われた激励会は、市長の挨拶の後、先輩隊員激励の言葉や自衛隊協力会及び隊友会からの記念品贈呈が行われた。続いて昼食懇談会を開催し、入隊予定者は「盛大な激励会に感謝します。期待に応えられる様頑張りたい」と決意を新たにしていた。（事務局長・瀬川正雄）

祝自衛隊入隊(校)予定者激励会

神奈川県県央支部（支部長・藤本正則）は3月10日、厚木商工会議所において「自衛隊入隊・入校予定者激励会」を防衛三団体共催（隊友会県央支部、募集相談員会及び自衛隊家族会）で予定者67名を囲み盛大に開催した。防衛大臣のDVDによる祝辞、綾瀬市長等の祝辞、地本長の厳しくも優しい励ましの言葉を頂き、自衛隊家族会長の乾杯の音頭で懇親会に移行。和気あいあいとした懇親の中で現職自衛官やOBからの優しい助言を得て、不安も薄らぎ入隊後の夢を語る姿も見受けられた。（理事役・斉藤力）

地域社会協力活動

千歳地方恵庭支部連合会（会長・石原康弘）は2月19日、恵庭市畜産共進会場で開催された「恵庭クロスカントリースキー大会」を会員10名で支援した。今年は30回を記念する節目の大会となり、4歳から90歳までの選手が、全国から1063名（自衛官を含む）参加した。会員は、約1000食の甘酒を参加者に提供し寒い中大変好評であった。また、村田泰治会員（86歳）は第1回から30回連続出場し、皆勤賞を授与された。（会長）

（社）隊友会恵庭支部連合会
暖かい甘酒を提供

札幌地方倶知安支部（支部長・和島巌）は3月15日、倶知安町峠下において雪だるま街道交通安全を願う会主催の交通安全行事「旗の波作戦」に会員10名が参加した。警察の交通課長の挨拶の後、和島支部長が参加者を代表して「交通安全に特効薬はありません。一人一人の交通安全に対する努力が大事」と挨拶。その後、国道5号線で通過車両に対して交通安全と記された旗を振り交通安全を訴えた。（会員・木村勝豊）

交通安全の旗を振る会員等

青森県三八地域支部（支部長・小笠原治仁）は2月12日、会員10名が八戸駐屯地修親会・曹友会約50名と合同で八戸市庁前広場の除雪奉仕を行った。これは、国の重要無形民俗文化財に指定されている「八戸えんぶり」が2月17日から実施されるのに先立ち、主会場の除雪を行ったもの。作業は凍った雪をつるはしで割って除去する難作業で、つるはしが両手、両足、腰に重くのしかかり1～2分で息が上がる。現職隊員と作業を交代しながら何とか作業を終え、その足で温泉に入り、3日後の筋肉痛に備えた。（事務局長・櫛部裕行）

「八戸えんぶり」会場の除雪

慰霊・顕彰等

岡山県操南支部（支部長・小野田利正）は2月24日、今年度最後の県隊友会行事である護国神社の清掃奉仕活動を神社所在地域の支部として担当・実施した。清掃奉仕活動は岡山市内及び近隣の支部有志により各期1回実施している。当日は市内5個支部のほか隣接の瀬戸内、赤磐・瀬戸、総社支部から有志12名が参加し、県隊友会長を囲んで互いの健康や近況を確認しながら和やかに清掃を実施した。（支部長）

群馬県箕郷支部（支部長・前橋富彦）は3月16日、彼岸前の恒例行事である箕輪城址内の「平和の礎」清掃活動を会員7名が参加して、遺族会箕郷支部と市役所職員と合同で実施した。会員は自前の熊手・竹箒で落ち葉の片付けを行い、周辺は見違えるように綺麗になった。その後、遺族会長のお礼の挨拶の後、戦没者の御霊に線香を手向け哀悼の誠を捧げ清掃活動を終了した。なお、箕輪城は国の史跡に指定され日本百名城に数えられている。（支部長）

清掃活動に参加した会員

役員会等を開催

宮城県仙南地区支部連合会（会長・柳澤正博）は2月18日、船岡駐屯地において10個支部が参加して理事役会を開催した。駐屯地の現況や募集・援護等の情報を得た後、今年度の連合会活動成果と次年度の予定、退職自衛官の見送り行事参加等への協力について審議した。その後の懇親会を開催、徳永駐屯地司令ほか22名の自衛官と西村衆議院議員を含む総勢49名で意見交換や親交を深めた。また、柴田支部は2月23日定年退職自衛官の駐屯地見送り行事で退官者の前途を祝した。（柴田支部事務局長・小野寺俊恵）

理事役会

鳥取県西部地区会（会長・野川正樹）は3月10日、米子市ふれあいの里において西部地区会支部長会議を36支部中32支部が出席して開催した。野川会長から現在副会長の内藤氏に交代する他、新理事役5名が発表され了承された。29年度事業・会計報告を承認し、30年度研修を海自江田島と呉市の大和ミュージアムに決定して閉会となった。また、8日には米子駐屯地の定年予定者の就職援護教育を真北事務局長が担当し、教育とともに隊友会の説明も合わせ実施した。（広報・田村博男）

支部長会議

山口県下関支部（支部長・峰岡偉津夫）は2月22日、下関基地隊で支部役員会を開催し、平成30年度の活動方針について審議した。会議後、お茶の間の防衛論紙「ディフェンス」に寄稿されている佐々木下関基地隊司令のご好意により、掃海艇「とよしま」で会食が行われた。その後は基地研修となり、朝鮮戦争時下関基地から日本特別掃海隊が朝鮮半島海域に出撃したこと等を学び、顕彰資料室を研修した。また、5月の支部総会に佐々木司令を迎え講演をしていただくこととなった。（会員・井上智彦）

食事前に佐々木司令を囲む記念写真

会勢拡大

札幌地方滝川支部（支部長・北川裕己）は3月1日、滝川駐屯地で行なわれた定年退職者紹介行事に髙橋勝美副支部長を派遣し、定年退職予定隊員に隊友会員の証となる「隊友会員き章」を贈り、支部の会勢拡大に努めた。この事業は平成27年度から進めている事業の一つで、これまで隊区内の地域に再就職する者のほぼ全員が隊友会に入会しており、大きな成果を収めている。（広報幹事・割出政明）

高橋副支部長が「隊友会員き章」を贈呈

研修・親睦会等

宮城県大崎支部（支部長・齋藤守治）は2月24日、特別会員や会員家族を含む42名で女川原子力発電所と女川町の東日本大震災復興状況を研修・見学した。女川町は、大崎支部が復興支援に協力した地域でもあり、当時の会員の活動状況を思い出し復興が進んでいること、更に東北電力が女川原発の再稼働に向けて「新規制基準」や「適合性審査」に対応すべく着実に準備を進めていることを確認した。（支部長）

女川原子力PRセンターで記念写真

宮城県塩釜支部（支部長・佐藤源一）は2月24日、支部長以下9名は日本赤十字社救急法（心肺蘇生・AED操法）を受講した。日赤の救急法救急員等の指導員資格を有する支部の大友氏を講師として、傷病者発見から心肺蘇生、AEDを用いた除細動、気道異物除去までの「一次救命処置」を訓練した。特に、胸骨圧迫は「強く・早く・絶え間なく」を要求され、約2時間悪戦苦闘の講習であったが救命処置の概要を習得することができた。（支部長）

大友会員指導による救急法の訓練

札幌地方岩見沢支部（支部長・藤原恒雄）は3月3日、岩見沢市内の温泉ホテルで恒例の「隊友の集い」を19名の会員が参加して開催した。前段の囲碁・麻雀大会に参加した9名は昼食や入浴を後回しにして勝負に邁進していた。後段の懇親会は、平成8年3月に退官して初めて隊友会行事に参加した会員の乾杯の音頭で開始された。ビンゴゲーム、のど自慢披露、近況報告等で親睦を深め、54歳から80歳の会員の体力・気力の充溢を確認しあい、盛会のうちに終了した。（副支部長・髙柳敏光）

「隊友の集い」

兵庫県神戸東支部（支部長・津田英治）は3月10日、例年恒例の親睦行事「酒蔵巡り」を行った。兄弟支部の神戸西支部や阪神基地隊にも案内し、会員、阪神基地隊員及び艦艇乗員の参加を得た。灘五郷の「御影郷」「魚崎郷」の酒蔵を巡り試飲し、資料館で酒造りの条件である六甲山の北風や蔵倉庫の温度調整等、また宮水（鉄分の少ない水）が酒造りに適し、近傍の西宮の原水で確保できること等を学んだ。春のうららかな天候のもと街歩きを楽しみながら原酒の利き酒を楽しむことができた。（事務局長・久保田博文）

酒樽を背景に記念写真

漢検　日本漢字能力検定【解答】

準1級
㈠1 りゅうらん　2 ちゅうそ　3 くろがし
㈡1 事勿　2 義侠心

2級
㈠1 しょうちゅう　2 くうどう
㈡1 徐行　2 多寡

公益財団法人 日本漢字能力検定協会
http://www.kanken.or.jp/kanken/
検定日 6月17日（日）　申込締切日 5月17日（木）協会必着
「漢字検定」「漢検」は登録商標です。